

地域で暮らす高齢者への終末期における訪問看護の特徴

1. 研究の対象

2012年4月1日から2017年3月31日までに、在宅療養支援ステーション楓の風の訪問看護を利用し、期間内に利用を終了された方

2. 研究目的・方法

我が国では急速に進む高齢化のなかで、誰もが可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができることが望めます。その中で疾患の経過や生活に応じた適切な援助、予防的な支援から終末期の医療的ケアまでを行う訪問看護師の役割は非常に大きいと考えます。そこで本研究では、地域で暮らす高齢者が自分らしい最期を迎えることができるために、訪問看護師がこれまでどのような看護を提供してきたのか、その実態と特徴を明らかにすることを目的として研究を実施する計画をしました。分析は個人情報を守るため、訪問看護記録からお名前や住所などの個人情報を切り離れた状況で行います。

研究期間:2017年7月～2019年3月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- (1)利用者情報より①性別、②年齢、③要介護認定区分、④(訪問看護)中止状態、⑤(訪問看護)中止理由
- (2)訪問看護記録書 I より⑥初回訪問年月日、⑦訪問前の状態、⑧訪問終了日、⑨終了時の状態、⑩家族構成、⑪介護状況、⑫ADL、⑬身体状況、⑭問題行動、⑮認知症の状況、⑯寝たきり度、⑰医療機器装着状況、⑱社会資源の利用状況、⑲住環境、⑳日常生活の状況、
- (3)ケアレポートより㉑(訪問看護)実施日時、㉒内容
- (4)訪問看護計画書より㉓看護計画
- (5)訪問看護報告書より㉔看護実施結果、㉕評価
- (6)訪問看護指示書より㉖主たる傷病名、㉗病状・治癒状態、㉘装着・使用医療機器、㉙日常生活自立度、㉚要介護認定の状況、㉛褥瘡の有無とその深さ

4. 外部への試料・情報の提供

昭和大学保健医療学部へのデータの提供は、研究関係者以外がアクセスできない状態で行います。どの利用者さまの情報であるか直ちに判断できないよう記録からカルテ番号と氏名、住所を削除した情報のみを、新たに研究番号を付してデータ化します。情報の使用について拒否のお申し出があった場合のために作成するカルテ番号と新たな研究番号の対応表

は、在宅療養支援ステーション楓の風において個人情報管理責任者が厳重に保管・管理します。

5. 研究組織

昭和大学保健医療学部看護学科 講師	村田加奈子
昭和大学保健医療学部看護学科 教授	富田真佐子
昭和大学保健医療学部看護学科 准教授	入江慎治
昭和大学保健医療学部看護学科 准教授	鈴木浩子
昭和大学保健医療学部看護学科 講師	西田幸典
昭和大学大学院保健医療学研究科博士前期課程	藤澤真沙子

在宅療養支援ステーション楓の風 副代表 野島あけみ

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

個人情報管理責任者：在宅療養支援ステーション楓の風 副代表 野島 あけみ
〒194-0011 東京都町田市成瀬が丘 2-2-2 ワタヤビル 3F Tel:042-78-0755

研究責任者：昭和大学保健医療学部看護学科 講師 村田加奈子
〒226-8555 神奈川県横浜市緑区十日市場町 1865 Tel:045-985-6500(代表)
Email: murata@nr.showa-u.ac.jp